

(1)

会 報



緑のまち

第25号 平成12年3月27日

発行 財団法人 日野市環境緑化協会

〒191-0016 東京都日野市神明2-13-1
電話 042(585)4740



(平成11年度 みどりの写真展応募作品より)

かつて日野駅から、東光寺（新町、栄町）の先まで一面の田んぼだった。東光寺八町田んぼ。途中に数軒の家があるのみで、東光寺の奥まで家が建っていなかった。道の途中、土を小高く盛った所があった。そこは、稲の生育状況を見渡す場所だったという。

稲作の緑肥としてレンゲの栽培が盛んに行われ、秋に発芽したレンゲの茎は地面をはって分枝し生長、10~30cmの高さになって、春に、紅紫色の花を咲かせる。レンゲは花の咲いている時期に田に鋤き込まれた。

日野はレンゲがよく見られる土地として知られていた。田植えが早まったことや化学肥料の普及でレンゲはつくられなくなった。

平成12年度 事業計画・収支予算

1 緑化推進に関する普及啓発事業

- ①春の緑化月間行事の実施
(家庭緑化の日・自然観察会等)
- ②緑の募金運動の実施
- ③緑化講習会の開催
- ④昆虫教室の開催
- ⑤会報「緑のまち」発行
- ⑥エコ・シテイ月間行事の実施
(公園及び地域清掃の日、緑の写真展等)
- ⑦作文集の作成

2 緑化推進に関する事業活動

- ①花の里親・里子運動の実施
- ②公共施設等の花卉植付
- ③菊花栽培事業
- ④募金運動によるサクラの植樹

3 緑化推進に関する調査・研究

コンクリートの露出しているよう壁及び法面の緑化について

4 受託事業

公園清掃及び管理業務



公園清掃及び管理業務
(受託事業)

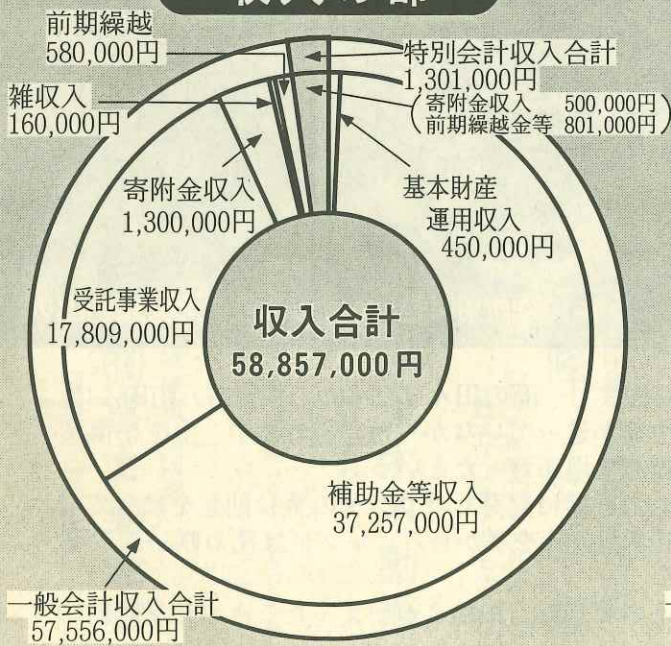


募金によるサクラの植樹
(緑化推進に関する事業活動)

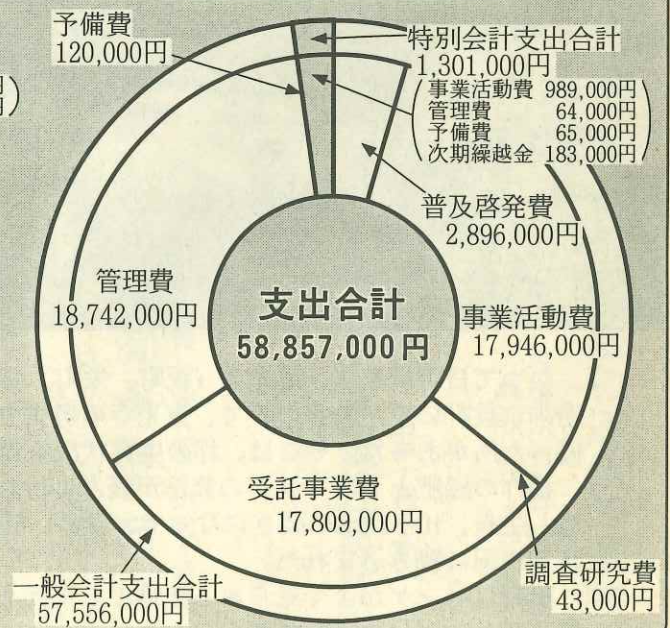


緑化講習会の実施
(緑化推進に関する普及啓発事業)

収入の部



支出の部



第1回 桜の植樹祭



はじめての1本

2月27日(日)、午前10時から、日野橋下流の多摩川沿いで、第1回桜植樹祭が(財)日野市環境緑化協会の主催で実施された。何よりは、130人の市民が当日参加してくれたことと陽気の暖かさであった。

多摩川沿いに桜苗木を植樹しようという、日野市環境緑化協会が取り組んでいる「サクラ植樹募金運動」には、2つの側面がある。1つは、平成9年に河川法が改正され、河川の環境保全と住民の意見の反映が盛り込まれ、河川が

より、市民に身近なものになって来たこと。2つめは、市内の環境緑化を市民の皆さんの募金によって進めるという点である。このことは協会としても初めての試みであった。

募金運動のきっかけは、東京日野ライオンズクラブの創立35周年を記念した、桜の苗木代の協会への寄附であった。昨年の10月下旬、20人の市民の募金推進員が集まって、事前準備会を持った。推進員の紹介と今後の募金活動の取り組みの話合いを行った。とにかく、桜の根が生長して堤防を傷めないようにする工事にお金がかかる。

第1回の街頭募金は、11月3日の「家庭緑化の日」に、配布7会場で桜植樹募金活動をする事になった。当日は、主に募金箱をさげ、チラシを配りながら一人一人に募金の趣旨を説明しながらお願いをした。11月13日、14日の両日は、日野中央公園を会場とした日野市産業まつりに参加した。推進員が公園の池の前と芝生の2か所に分かれ、桜植

樹募金のお願いの声かけを行った。市内の老人クラブ始め、幼稚園、保育園、学校、各種団体、会社、市役所関係にも桜募金をお願いをした。

植樹日当日。受付をすませた市民は、植樹場所や土手にブルーシートを風よけ用に

土手に張った、幅5m、長さ150mの会場に市民が集まり出した。「市民による桜の園の第1歩」という中村協会理事長のあいさつに植樹祭は始まった。白い手袋をしての鋤入れの大島桜。観客から拍手と笑いが起こる。それに続いて、地元自治会、市民一般、協賛団体、推進員などに分かれて、残りの桜を植樹する。記念写真の後、地元地区センターを借りて、推進員が作った甘酒

を参加者みんなで飲みながら、今年の植樹を終了した。

4月中旬には、桜の花も咲くことだろう。

大島桜、高さ5m、幹回り16cm、枝幅1.3m。10本90mの距離は短いようである、思った以上の長さがある。桜植樹募金は、本当に多くの市民、団体、事業所、協賛団体の有形無形の支援の中で行われた事業であった。

募金は続けています

第2回サクラ植樹募金

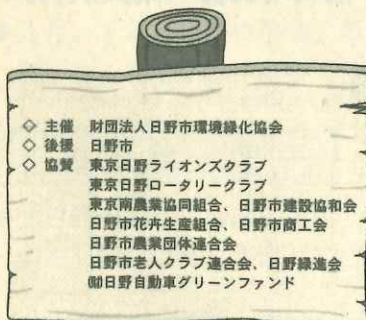
多摩川の日野橋下流の堤防敷に桜の苗木を植える費用を、市民のみなさまにお願いしましたところ、数千人の方々から暖かいご寄附がよせられました。第1回は、2000年2月27日に、大勢の市民一人ひとりの「移植ゴテ」で、10本の桜を植えることができました。来年からチラホラ花が咲き出すことでしょう。5、6年先の見ごろを楽しみにしましょう。

第2回は2001年2月に募金額に見合う本数を植えるつもりです。(第3回は2002年2月を予定しています。)

募金は一口1円から何口でも結構です。

ひきつづき市民のみなさまの暖かいご寄附をこころよりお願い申し上げます。

ご協力お願いします!



21世紀につなごう
桜の名所!

(お問合せ先)
朝日野市環境緑化協会内「サクラ植樹募金係」
TEL: 585-4740

ご参加ください。

～5月28日

くらしに花とうるおいを!

主催 日 野 市
(財)日野市環境緑化協会

花と緑の健康相談

午前10時～正午 日野中央公園

- 草花、菊、花木、植木などの相談を専門家がお応えします。

即 売 会

午前10時～正午 日野中央公園

- 苗木、鉢花の販売、肥料、腐葉土など園芸資材の販売、図書の販売を行います。

山野草・盆栽展

4月17日(月)～4月19日(水) 市役所101会議室
午前9時～午後4時(19日は午後3時まで)

- 四季の風情を感じさせてくれる山野草。自然の景観を凝縮した盆栽。一つ一つの作品をじっくりご覧ください。

公園及び地域清掃の日

4月23日(日) 午前9時～正午

- 『美しいまち日野』を目標に、公園、広場、グリーンベルト、自宅周辺の市内一斉清掃を行います。この一斉清掃は、春・秋の年2回、自治会、老人クラブ、子ども会の皆さんのご協力で実現しています。
- 4月23日(日)に実施出来ない団体は、前後の日程で実施してください。

自 然 観 察 会

5月28日(日) 午前9時30分～午前11時30分(雨天決行)

- 今回は高幡不動から、クリーンセンターまでのコースを歩きます。
用水や浅川堤の植物を観察して、最後はクリーンセンターを見学します。
- 集 合=高幡不動駅前 午前9時15分
- 定 員=50名
- 申込み=電話で、(財)日野市環境緑化協会 (☎ 585-4740) へ

緑 化 講 習 会

広報「ひの」の募集をご覧のうえ緑化協会にお申し込みください。

- (財)日野市環境緑化協会では、年間を通して、「コンテナガーデン」、「無農薬でつくる野菜づくり」、「庭木の手入れ」、「樹木医の処方箋」、「昆虫教室」、「自然観察会」、など、様々な緑化講習会を開催しております。

春の緑化月間行事に

期間＝平成12年4月17日

テーマ：まちに緑と清流を！

家庭緑化の日

4月29日(祝) 午前10時～正午 日野中央公園ほか

- (財)日野市環境緑化協会では、4月29日を日野市の「家庭緑化の日」として、ご家庭の緑を増やしていただくよう、クリーピアの花苗の無料配布を行います。
日野中央公園では、緑のリサイクル、花と緑の健康相談、草花、花木販売なども同時開催します。

花苗の無料配布

配布時間は下記のとおり

- 『クリーピア』の花苗を、市内7会場で1世帯につき2ポット、先着順に配布します。

日野中央公園	午前9時40分から 1,400人
東京南農協 七生支店	午前10時から 500人
旭が丘中央公園	午前10時から 200人
市民の森 スポーツ公園	午前10時から 200人
平山地区センター	午前10時から 300人
日野第八小学校	午前10時から 200人
万願寺八号公園	午前10時から 200人



ペチュニアの新品種です。花は直径6～8cmになり、春から晩秋まで楽しめます。成長が早く、1株で直径80～100cm位に育ちます。花は雨に強く、雨後の回復も早いです。今回配布の花色は、ブルーとコーラルです。

緑の募金

午前10時～ 各会場

- 4月、5月は「緑の募金」の重点期間です。当日、各会場で「緑の募金」を行いますのでご協力をお願いいたします。

花の里親・里子

午前10時～ 各会場

- 「日野市の花いっぱい運動」を展開している(財)日野市環境緑化協会の「種箱」へ、花、野菜の種の提供をお願いいたします。当日、各会場で種を集めています。

緑のリサイクル

午前10時～正午 日野中央公園

- ご家庭で不要になった球根や苗をリサイクル配布します。
- 配布用の苗や球根の提供をお願いいたします。(財)日野市環境緑化協会 ☎585-4740
受付期間＝4月7日(金)まで 受取期間＝4月10日(月)～4月14日(金)

丘陵公園の 緑と生き物

日野市立平山小学校

小暮 更紗

「ほーほー」

今夜も丘陵公園からフクロウの声が聞こえてきます。夏の夜、窓を開けると静けさの中でフクロウの声だけが聞こえてきます。去年の夏も聞こえました。一年間元気でいてくれたんだなあと、思いました。私の家は、丘陵公園のすぐ近くにありますが、丘陵公園は、都で作った自然をそのまま残した公園です。もっと私が小さいころには、丘陵公園へお弁当を持って遊びに行ったり、雪の日にはそりをして遊びました。このごろは大きくなってあまり遊びに行ったりはしてありませんが、かわりに小鳥たちが遊びにきてくれるようになりました。

冬は、パンくずやミカンを縁側に出しておきます。そうするとひよ鳥などの鳥が、食べにきます。このごろは人がそばにいても、遠くへ飛んで行ってしまふことは、ほとんど

どなくなりました。近くのブロッコベいの上ですと待っている姿は、かわいいです。ひよ鳥やフクロウだけでなく、キツキもいると聞きました。私はみたことがありません。ところが去年、熊野神社と丘陵公園の間にある山が全部けずられてしまいました。私は、そこが神社か丘陵公園の土地だと思っていたので、工事が始まったときは、びっくりしました。大きな木が次々と毎日切りたおされ、ショベルカーで土がけずられていきます。私は森に住む鳥のすみかや、土の中にある虫のすみかやよう虫が、死んでいってしまうのではないかと思っても悲しかったです。今は、そこには新しい家が、たくさん建ち並んでいます。工事をとめるようなことは、私の力ではできません。とても残念でした。もっと都や市が緑を大切にするために土地を買い取ってくれないかなと、思い

ます。私にできることは冬のエサやりです。多くの鳥がこんどの冬も私の家に来てくれることと、夏には窓からフクロウの声が毎年聞こえてくることを願っています。

ヒマワリ

日野市立平山小学校

福田 香織

私の家には、ハムスターがいます。そのハムスターは、ヒマワリの種を食べます。私はエサを取り代えるとき、残りのエサや空の種をいっしょに庭へ捨てます。

ある日、私が外に出てみると、家の前に双葉がちょこんと出ていました。私がお母さんに聞いてみると、ヒマワリだということが分かりました。

私は何もしていないのに、いつのまにか、この前捨てたヒマワリの種が芽を出しました。私は、自然の力はすごい!と思いました。けれど、自然の力だけでは植物は育ちません。いくら雨がふっても、もし私がヒマワリの種をコンクリートに捨てたら芽は出ません。大切なのは、日光と水と土なのです。今、土の道が少なくなっています。土が少なくなっていることは、木や草花の育つところが少ないということです。私の母の実家、おばあちゃんの家は、長野にあります。夏、長野は私達の住んでいる日野より涼しく、すごしやすいところなんです。そのわけは、一つ目は、日野より北にあること、二つ目は標高が高いこと、三つ目は、土の道が多いこと、もう一つは、木が多いことです。土は日光を吸収します。土の道が多いということは、吸収する量が多いので

す。コンクリートの道だと日光は吸収されず、照り返されてしまいます。だからコンクリートの道の多い日野は長野よりも気温が高いのです。あともう一つ、木が多いと、木かげができ、日光をふせぎます。私達のすごしやすい環境は、緑の多い町ということなのです。

緑の街

日野市立高幡台小学校

佐々木 綾子

最近、昔にくらべて、緑が減っています。建物を建てるために、木を切ってしまったり、電気製品や車、工場のけむりなどのせいで温暖化が始まっています。道にゴミを捨てて行く人もいます。今、いろいろな事で緑がなくなっています。海があって、陸には

私達から

の提案

身近にある緑の「豊かさ」こそが、子ども達自身に様々な経験をさせ、深い感受性を育てています。市内の小学校6年生を対象にした、作文募集「緑のまち」に19校734編の応募がありました。優秀賞10編の内の5編を今回紹介します。

木や草がはえ、生き物が住めるのは地球だけです。人間の勝手に地球をよごしたら、全部の生き物の住む所がなくなります。私たちにできる事はなんだろうか？まずゴミを出さない。そのためには、むだな物を買わない。物を大切にす。リサイクルに協力する。

それから自家用車はなるべく使わない。電気をむだ使しない。使った後はコンセントをぬく。などを気をつける事が大切だと家族で話し合いました。でも、地球に住むみんなが力を合わせなければいけないと思いました。今、私が住んでいる高幡台団地は、多摩丘陵にあります。まだまだ緑が多く、タヌキやウサギがまだ住んでいるそうです。春になると桜がたくさん咲き、夏にはせみが一日中なっています。秋には秋の虫がきれいな音でなきます。冬は空気がすんでるので富士山や西の山々が青くきれいに見えます。都心のビルばかりの所にいると、なんだかソワソワします。けれど緑の多い高幡に帰って来るとホッとした気持ちになります。私はそんな高幡が大好きです。私は児童会の役員をやっている、グリーンマー

クをあつめました。そのグリーンマークで学校にまた新しい木をうえたいです。これからも少しずつ木が増えるといいと思います。人間が好き勝手に自然をこわしたりしないで、みんな力で合わせて緑を増やしていけるといいと思います。

北欧の 緑にふれて

日野市立南平小学校

葛野 悠吾

ぼくは、今年の夏休み、父の仕事先の北欧に旅行しました。初日、飛行機から見たフィンランドは、一面の緑におおわれていました。ヘルシンキ空港に着いて、町まで行くバスの窓からは、白かばの林が見え、北国の花々と一緒になって、とても美しい風景が続いていました。

北欧では、大きな町の真ん中でも沢山の公園があります。それぞれが広く、木に囲まれたベンチでは、人々が朝食を楽しんだり、のんびりと休けいをしたりしていました。

公園の中心には、噴水と池のある所が多く、僕と妹は噴水のしぶきを浴びては、「マイナスイオンがあふれているぞ。」と走り回りました。先日見たテレビで、「水辺では空気中のマイナスイオンが多く、人々のストレスを解消したり、イライラをなくしたりする働きがある。」と放送していたことを思い出したので。確かに、広々とした公園の噴水を見てみると、とてもリラックスした気分になりました。

日本へ戻って来た時は、関西新国際空港に着きました。新しい設備や近代的な電車での移動は、快適でした。しかし、北欧の空港に比べると、人工的な観葉植物ぐらいいし目にいらす、町に緑が少ない事が印象的でした。

ぼくの家は、高幡不動の山道に面しています。両親が高幡山の緑を気に入って家を買ったそうです。雨が降ると、山からカエルが家の前まで出て来ますし、朝夕には鳥の声

が聞こえます。夏にはセミが、とも多く、身近な自然が残っている方だと思います。各家が芝生や庭木の手入れをしたり、季節の花を飾ったりして

いることも、緑の多い町づくりに役立っているのではないでしょう。近ごろは、高幡にもマンションがふえてきましたが、ぼくの町には、いつまでも人々の心をリラックスさせてくれる自然を大切にしたい町でいてほしいと願っています。

緑を守るために

日野市立程久保小学校

市 瀬 あすか

日野市は緑があつてとてもいい所です。外を見れば山だつて見えます。もちろん日野市のほかにも緑がたくさんあるところはいっぱいあります。反対に緑がほとんどない所もあります。これは森にある木を切ってしまったたり、森林をこわしてしまふことが原因です。木一本が大きくなるまでに何十年もかかるといふのに、どんどん木を切つたり、山をこわしてしまえば緑はなくなります。でもこういうところがふえているのです。いったいこのままでいいのでしょうか。

去年の夏、私はニュージーランドという国に行きました。車でいろいろな所を旅しましたが、どこに行っても緑が多く、自然をととても大切にしている。こんなニュージーランドにも自然が破かいされそうない時期がありました。しかし、先住民のマオリ族が、

「人間の作ったものはいずれなくなるが、自然の宝は時をこえて存在する。」と強くうたったため、国は

世界で二番目に国立公園を作りました。今から百年前のことです。このことをきっかけに自然保護の運動が高まりました。国土の三分の一が自然保護区になったのです。これはすごい考えだと思いました。私達も、緑をなくさないためにはどうすればいいかをもう少し考えた方がいいと思います。人々が緑を大切に、そして、幸せな環境を作るために、たとえばニュージーランドの先住民のように勇気を出してうったえることも大切だと思えます。私達が幸せに生きていくためにも、また、緑や自然が幸せに生きていくためにも、緑を大切に、守っていききたいです。

「緑の募金」にご協力を!

〈4月1日〜5月31日〉

緑の募金運動が始まります。この運動は、昭和25年、戦後の荒れた国土復興のために始まりました。現在では、公園や公共施設等の緑化を始め、森林の整備や熱帯雨林の再生などにもこの募金が使われています。

毎年、自治会、老人クラブ、企業等多くの皆様にご協力を

いただいております。おかげさまで、昨年度は260万円の募金が集まりました。今年度も4・5月を重点に募金運動を行います。住み良い暮らしに「緑」は無くしてはならないものです。「緑の募金」運動へ皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

撮影をお願いします

11月に緑の写真展を開催します。

緑の木々や花の咲き誇る庭など秋の写真展に向けて撮影をお願いします。

▽緑の写真展(その1)

街角で見つけた緑や人と緑との生活風景など「日野の緑」がテーマです。

※サイズ(カラープリント 四ツ切り)

▽緑の写真展(その2)

かわいがっている草花や

丹精込めた庭木など「我が家の緑」がテーマです。

※サイズ(サービスクラフト)

☆緑の写真展

その1・その2とも展示のみになります。

街角だより

昔は、どこの庭先にも柿の木があり甘いごちそうだった。日野の柿というと禅寺丸を思い浮かべる。子どもの握りこぶし大の、丸い甘柿のことである。

南平の佐々木昭雄さんに、樹齢300年を越す、禅寺丸の古木を見せてもらった。幹回り141cm、枝の多さと曲がり具合が印象的だ。隔年で実をならせ、今年実をつける年だと

いう。1本で50kgとれる。明治41年から書かれている「書拔帳」には不作の年、幾らで売れたなどが記載されている。多い時は100本あった柿の木も今は半分に減った。

今でも、佐々木さんは柿を市場に出荷している。枝のついた柿を、始めに3個ひもでしばり、次に4個、最後に3個をしばると完成する。



日野に300年

編集のあとに

▽木は土中の奥深く根をはりめぐらせ、そこにある泉から水を吸いあげる。幹の内側をとおる、水は、葉まで達する。木の種類や大きさにもよるが、夏の晴れた日には、日に数10ℓから数100ℓの水を吸いあげ、大気中に放出する。夏の暑い日の市役所隣の日野中央公園では、日に10tから17tの水が、熱を奪い、水蒸気となって蒸散している。

▽「地球は美しく輝く自然豊かな生命の星」宇宙飛行士バズ・オールドリン。

藤和通信工業(株)

日野市日野二一八四
☎五八四一六五五一

設計・監理・諸手続

(株)山崎建築設計事務所

日野市東豊田四一七七八
☎五八一八七八八

寿し処・立食・出前・会席

(有)大浜商事

日野市高幡四七一―二
☎五九二一六九九五

印章・ゴム印・一般印刷

隆文堂

日野市神明四一八―二
☎五八四一五五六七

(株)大木不動産

日野市多摩平一―一
☎五八一〇〇一六

E-mail: onki@mail.hinocaty.ne.jp
URL: http://www.hinocaty.ne.jp/~onki

電機機器製造

(有)富士美産業

日野市日野三〇四九
☎五八三一五二〇〇